

2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年2月14日

上場会社名 株式会社海帆 上場取引所 東
 コード番号 3133 URL <https://www.kaihan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 守田 直貴
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 水谷 準一 TEL 052-586-2666
 配当支払開始予定日 -
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	2,060	14.3	△290	—	△317	—	△399	—
2024年3月期第3四半期	1,803	20.8	△448	—	△446	—	△528	—

（注）包括利益 2025年3月期第3四半期 △399百万円（－％） 2024年3月期第3四半期 △528百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	△7.75	—
2024年3月期第3四半期	△11.88	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	4,896	1,801	35.6
2024年3月期	3,616	890	24.6

（参考）自己資本 2025年3月期第3四半期 1,745百万円 2024年3月期 890百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	0.00	—		
2025年3月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,550	45.3	149	—	83	—	20	—	0.38

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 2社 (社名) 株式会社BOBS、株式会社Kaihan Medical

除外 1社 (社名) 株式会社BOBS

(注) 当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった株式会社BOBSは、同じく当社の連結子会社である株式会社Kaihan Medicalを存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期3Q	52,323,283株	2024年3月期	50,768,900株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	一株	2024年3月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期3Q	51,546,091株	2024年3月期3Q	44,492,900株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況.....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況.....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等.....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善に関する動きがみられるものの、ウクライナ情勢の長期化によるエネルギー価格の高騰や、原材料価格の上昇、為替相場の円安の長期化等、依然として先行き不透明な状況となっております。

当社グループが属する国内の外食業界におきましては、国内及びインバウンド需要に回復の兆しがみられておりますが、水道光熱費や原材料価格等の上昇は大きな影響が懸念され、依然として厳しい経営環境が続いております。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,060,632千円(前年同期比14.3%増)、営業損失290,814千円(前年同期は営業損失448,750千円)、経常損失317,895千円(前年同期は経常損失446,092千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失399,574千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失528,646千円)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(飲食事業)

当セグメントにおきましては、2021年5月14日開示の「フランチャイズ契約の締結に関するお知らせ」のとおり、株式会社ファーズの「新時代」業態にFC加盟を行い、当社の多くの店舗を業態転換しております。また、2022年7月15日開示の「株式会社SSSの株式取得(子会社化)に関するお知らせ」のとおり、関東圏を中心に居酒屋事業を運営する会社の株式を取得し、事業エリアの拡大に向けて取り組んでおります。業態転換を行った「新時代」は引き続き好調な業態であり、当社は新時代を含め既存店27店舗(内FC8店舗)、株式会社SSSは居酒屋店舗を中心として19店舗(内FC18店舗)の展開によって、セグメント売上高は1,831,227千円、セグメント利益は129,837千円となりました。

(再生可能エネルギー事業)

当セグメントにおきましては、2022年10月21日に新たにKAIHAN ENERGY JAPAN合同会社(2023年1月31日付でKR ENERGY JAPAN合同会社へ商号変更しております。)を、2023年3月31日にはKRエナジー1号合同会社を設立し再生可能エネルギー事業を開始いたしました。当第3四半期連結累計期間におきましては、建設しております太陽光発電設備の系統連系が完了したことによる売電収入が徐々に増加しており、引き続き新たな太陽光発電設備の取得に取り組んでおりますので、セグメント売上高は45,984千円、セグメント損失は42,332千円となりました。

(メディカル事業)

当セグメントにおきましては、2024年8月30日に新たに株式会社BOBS及び株式会社ワイデン(2024年9月17日付で株式会社Kaihan Medicalへ商号変更)を簡易株式交換(一部金銭交付)により100%子会社としました。両社は、大阪府に本社を置く医療法人大美会(大阪府大阪市中央区東心斎橋二丁目8番28号 理事長南真実子)(以下、「大美会」という。)のMS法人(正式名称を「メディカル・サービス法人」といい医療機関の経営形態の一つであり、クリニックや歯科医院の経営を支援する法人をいう)であり、当該MS法人は大美会の運営する美容クリニックにおける集客及び経営における全般に関してコンサルタント業務を受託する法人となります。具体的にはクリニックにおける広告に関する業務、SNSに関する業務、予約管理業務、経営管理業務、事業計画立案及び事業拡大におけるコンサルティング業務を受託しております。当該MS法人を取得することにより、当社が現時点で業務支援を行っております医療法人社団修永会(愛知県名古屋市中区栄3丁目15番37号 理事長宮嶋尊則)(以下、「修永会」という。)の業務支援にも活用してまいります。

なお、2024年12月25日付で、当社の完全子会社で連結子会社である株式会社Kaihan Medicalを存続会社とし、同じく当社の完全子会社で連結子会社である株式会社BOBSを消滅会社とする吸収合併を実施しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、2024年8月より業務を開始した結果、セグメント売上高は183,420千円、セグメント利益は79,505千円となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は4,896,273千円(前連結会計年度末比1,279,410千円増加)となりました。これは主として建設仮勘定が507,905千円減少した一方で、のれんが1,327,057千円増加したこと、また、機械及び装置が537,468千円増加したことによります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は3,094,466千円(前連結会計年度末比368,258千円増加)となりました。これは主として短期借入金金の減少が133,118千円あった一方で、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)が539,526千円増加したことによります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,801,806千円(前連結会計年度末比911,152千円増加)となりました。これは主として親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が399,574千円減少した一方で、株式交換等により資本金及び資本剰余金がそれぞれ627,077千円増加したことによります。

この結果、自己資本比率は35.6%(前連結会計年度末は24.6%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2024年9月27日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

当第3四半期連結累計期間までの進捗は概ね計画通りであり、第4四半期以降に関しましては再生可能エネルギー事業における売上高の増加やメディカル事業における売上高の増加を見込んでおります。

当該業績予想については、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、当第3四半期連結累計期間において営業損失290,814千円、経常損失317,895千円及び親会社株主に帰属する四半期純損失399,574千円を計上しており、また、前期末において2019年3月期から連続して営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上しております。これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

また、一部の取引金融機関からの借入について、現時点では期限の利益喪失に関わる条項を適用する旨の通知を受けていないものの財務軽減条項に抵触しております。

当該状況を解消又は改善するための対応策は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(継続企業の前提に関する注記)」に記載しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	804,673	569,880
売掛金	98,126	240,861
未成工事支出金	54,872	54,872
原材料及び貯蔵品	14,068	22,706
その他	212,088	121,740
貸倒引当金	△1,284	△244
流動資産合計	1,182,544	1,009,818
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	312,221	295,687
機械及び装置(純額)	260,939	798,407
リース資産(純額)	35	8
建設仮勘定	928,011	420,106
その他(純額)	42,689	54,503
有形固定資産合計	1,543,898	1,568,713
無形固定資産		
のれん	306,325	1,633,382
その他	45,612	71,858
無形固定資産合計	351,938	1,705,240
投資その他の資産		
敷金及び保証金	247,263	230,346
長期貸付金	168,229	48,687
その他	122,797	333,274
投資その他の資産合計	538,290	612,308
固定資産合計	2,434,126	3,886,263
繰延資産		
創立費	191	191
繰延資産合計	191	191
資産合計	3,616,862	4,896,273

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	143,026	132,928
短期借入金	750,118	617,000
1年内返済予定の長期借入金	460,752	374,826
リース債務	87,780	89,723
未払法人税等	51,783	85,466
未払金	297,597	352,101
未成工事受入金	66,949	66,949
事業整理損失引当金	17,889	4,848
株主優待引当金	58,395	20,660
その他	77,289	74,549
流動負債合計	2,011,582	1,819,054
固定負債		
長期借入金	513,387	1,138,839
リース債務	171,150	103,893
その他	30,087	32,680
固定負債合計	714,625	1,275,412
負債合計	2,726,208	3,094,466
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,684,266	2,311,343
資本剰余金	1,054,190	1,681,267
利益剰余金	△1,847,924	△2,247,499
株主資本合計	890,531	1,745,112
新株予約権	122	56,694
純資産合計	890,654	1,801,806
負債純資産合計	3,616,862	4,896,273

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	1,803,453	2,060,632
売上原価	596,148	609,552
売上総利益	1,207,304	1,451,079
販売費及び一般管理費	1,656,055	1,741,894
営業損失(△)	△448,750	△290,814
営業外収益		
受取利息及び配当金	28,820	5,230
違約金収入	—	2,970
その他	5,098	4,401
営業外収益合計	33,919	12,602
営業外費用		
支払利息	29,413	37,385
その他	1,847	2,297
営業外費用合計	31,261	39,683
経常損失(△)	△446,092	△317,895
特別利益		
固定資産売却益	6,017	562
会員権売却益	—	5,187
資産除去債務戻入益	—	11,585
負ののれん発生益	—	38,140
事業整理損失引当金戻入額	14,908	—
その他	—	1,180
特別利益合計	20,926	56,657
特別損失		
減損損失	36,401	34,681
固定資産除却損	25,152	—
その他	2,520	5,560
特別損失合計	64,074	40,242
税金等調整前四半期純損失(△)	△489,240	△301,480
法人税、住民税及び事業税	42,900	99,951
法人税等調整額	△3,493	△1,857
法人税等合計	39,406	98,094
四半期純損失(△)	△528,646	△399,574
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△528,646	△399,574

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純損失(△)	△528,646	△399,574
四半期包括利益	△528,646	△399,574
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△528,646	△399,574

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	飲食事業	再生可能エネルギー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,802,136	1,317	1,803,453	—	1,803,453
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,802,136	1,317	1,803,453	—	1,803,453
セグメント利益又は損 失(△)	141,465	△183,348	△41,883	△406,867	△448,750

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去等65,568千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△472,435千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度の末日に比べ、「再生可能エネルギー事業」セグメントの資産金額は891,050千円増加しております。これは主に、KRエナジー1号合同会社における建設仮勘定並びに現金及び預金の増加によるものであります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食事業」セグメントにおいて、店舗資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において36,401千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	飲食事業	再生可能エ ネルギー事 業	メディカル 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,831,227	45,984	183,420	2,060,632	—	2,060,632
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,831,227	45,984	183,420	2,060,632	—	2,060,632
セグメント利益又は損 失 (△)	129,837	△42,332	79,505	167,010	△457,825	△290,814

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額は、セグメント間取引消去等450千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△458,275千円であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

2024年8月30日付で、株式会社BOBS及び株式会社ワイデン（2024年9月17日付で株式会社Kaihan Medicalへ商号変更）の株式を取得したことにより、中間連結会計期間より、同社を連結の範囲に含めております。これに伴い、中間連結会計期間より「メディカル事業」を新たに報告セグメントに追加しております。

この影響により、当第3四半期累計期間において「メディカル事業」のセグメント資産の金額は1,903,068千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「飲食事業」セグメントにおいて、店舗資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において34,681千円であります。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

株主資本の金額の著しい変動

当第3四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により資本金が651,283千円、資本剰余金が651,283千円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が1,661,563千円、資本剰余金が1,031,487千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

株主資本の金額の著しい変動

当第3四半期連結累計期間において、2024年8月30日を効力発生日として、当社を株式交換完全親会社とし、当社の連結子会社である株式会社BOBS及び株式会社ワイデン(2024年9月17日付で株式会社Kaihan Medicalへ商号変更)を株式交換完全子会社とする株式交換を実施したことにより、資本金が622,151千円、資本剰余金が622,151千円増加しております。

また、新株予約権の行使により資本金が4,926千円、資本剰余金が4,926千円増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,311,343千円、資本剰余金が1,681,267千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、第3四半期連結累計期間において営業損失290,814千円、経常損失317,895千円及び親会社株主に帰属する四半期純損失399,574千円を計上しており、また、前期末においては2019年3月期より連続して営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上しております。これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

また、一部の取引金融機関からの借入について、現時点では期限の利益喪失に関わる条項を適用する旨の通知を受けていないものの財務軽減条項に抵触しております。

当社グループは当該状況を解消すべく、ウクライナ情勢による原材料価格等への影響が不透明な状況下ではありますが、以下のとおり対応を進めてまいります。

飲食事業においては、2022年7月15日開催の取締役会において、株式会社SSSの株式の100%取得を決議し、子会社化しました。株式会社SSSは当社と同様に居酒屋事業を運営し、オペレーションや原材料等の共通点があり、また、従業員の独立を支援する店舗展開による利益率の高い店舗運営を行っていることから、そのノウハウを十分に当社グループの飲食事業にて活用していきます。また食材原価と人件費の管理を徹底して行い利益率の向上を図ります。金融機関との緊密な関係を維持し、継続的な支援をいただけるよう定期的に協議を行ってまいります。

再生可能エネルギー事業においては、2022年10月21日にはKAIHAN ENERGY JAPAN合同会社(2023年1月31日付でKR ENERGY JAPAN合同会社へ名称変更しております。)、2023年3月31日にはKRエナジー1号合同会社を新たに設立し、再生可能エネルギー事業にも進出し、飲食事業以外の安定的な収益基盤の確保に向け、太陽光発電施設の建設を行い、売電もしくは太陽光発電施設そのものの売買を始めております。さらに取得した太陽光発電設備の土地を有効活用する事を目的として、発電設備の下にて農作物の栽培を行うことも予定しており、そこで収穫した農作物を、当社グループが運営する飲食店へ供給する事により、事業においてシナジーが生じ、将来的な業績の改善に寄与するものと考えております。再生可能エネルギー事業に必要な資金に関しては、金融機関からの調達を予定しております。

一方、さらなる事業の構造改革として、美容クリニック事業の支援業務を含むメディカル事業に参入を行いました。2024年4月4日に締結した「株式会社BOBS及び株式会社ワイデンの株式取得に向けた基本合意書」に基づいて、2024年8月30日に株式会社BOBS及び株式会社ワイデン(2024年9月17日付で株式会社Kaihan Medicalへ商号変更)を簡易株式交換(一部金銭交付)により100%子会社とし両社を中間連結会計期間より連結の範囲に含めております。両社は、大阪府に本拠を置く医療法人大美会(大阪府大阪市中央区東心斎橋二丁目8番28号 理事長南真実子)(以下、「大美会」という。)のMS法人(正式名称を「メディカル・サービス法人」といい医療機関の経営形態の一つであり、医療クリニックや歯科医院の経営を支援する法人をいう)であり、当該MS法人は大美会の運営する美容クリニックにおける集客及び経営における全般に関してコンサルタント業務を受託する法人となります。具体的にはクリニックにおける広告に関する業務、SNSに関する業務、予約管理業務、管理業務、経営管理業務、事業計画立案及び事業拡大におけるコンサルティング業務を受託しております。当該MS法人を取得することにより、当社が現時点で業務支援を行っております医療法人社団修永会(愛知県名古屋市中区栄3-15-37 理事長宮嶋尊則)(以下、「修永会」という。)の業務支援にも活用し利益の獲得に寄与できると考えております。

さらに金融機関とは引き続き緊密な関係を維持し、継続的な支援をいただけるよう定期的に協議を行ってまいります。

今後も上記施策を推進し、収益力の向上と財務体質の強化に取り組みますが、これらの改善策及び対応策の一部は実施中であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	39,180千円	37,261千円
のれんの償却額	29,425千円	86,756千円